

明治元年十二月十六日より明治元年十二月廿二日まで

P8310807right

結髪を頼む小品携う、山下泉夫妻沼津移居出遅掛けの由、立寄□不在にて不面遺憾

十六日未 晴微雨夜風雨 早春暖度四十度(撰氏 4.4度)

小笠原へ砂糖組合加入金廿五円を携う、且鶉飼加入の儀頼む、鶉飼を問し処寓居

尋得ず空敷(むなく)帰る

十七日申 陰午前より

渡辺幸来り、談話時を移す、山梨より婦ろふき芋、旅亭より海鼠(なまこ)少許(すこしばかり)贈らる小酬以遣す

十八日酉 晴木村□来り談話時を移す、繰蚕の術並貸庫典物等の計あり、太郎進退の所見を□告し

同人息は参考とす、鶉飼へ行き一昨小笠原へ申入し儀を報じ、且木村の計をも示す

P8310807left

十九日戌 晴

鶉衛へ行き結髪をたのむ小品携う、帰途織田泉へ寄る、面晤(*)す、鶉飼来る霜糖組合

加入金證書小笠原分三人連名□也、右を持来せし旨、金□鉄来り問いし旨

廿日亥 陰午下雨意

近傍両度散歩、私事を弁す

廿一日甲子 陰午前より雨

石野家族借寓居の儀に付、山梨より□残有し赤松へ行き右借料手附金一円受取帰り

旅亭主人へ渡し咄し□く、太郎大助同道、鶉衛へ行く途中迄同行し御城を廻り帰る

廿二日丑 晴

*1:面晤(めんご)面会する(こと)

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。